

池袋の演劇文化支える

あすへ
つながる Tokyo

②

お寺の小劇場50年

劇場支配人で、昨年住職を継いだ文彦さん(四四)は、こう話す。

寺と劇場。ギャップがありそうだが、「今も昔も、お寺の役割は人が集まる場所であること。地域に溶け込まないと、町寺はただの風景になってしまう」。

寺と相性が悪いはずがない。二〇〇五年、老朽化したアパートがビルに建て替えられ、約百七十席から七十席まで大中小の三劇場を抱えるシアターコンプレックスに生まれ変わった。

劇場支配人で、昨年住職を継いだ文彦さん(四四)は、こう話す。

同劇場は「グリーンフェスタ」「学生芸術祭」という演劇祭も主催している。十二年続く学生芸術祭は大学生の登竜門だ。「学内だけでやっていけばいいという学生劇団が多かったが、同世代を交流させたかった。そして才能がある人にお金をもらって演劇を経験してもらいたかった」。



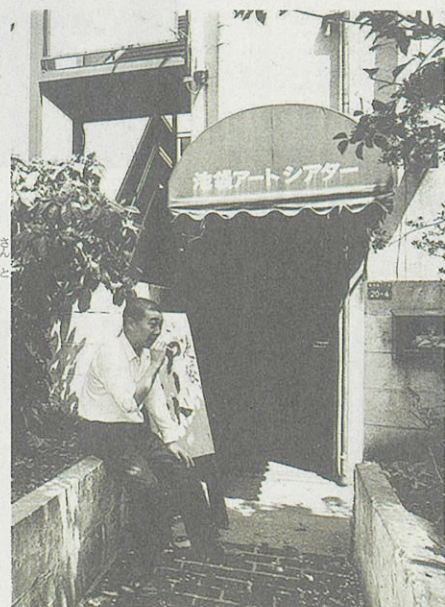
シアターグリーンの新春はここ数年、文彦さん主宰の劇団「さくらもん」の三館同時公演で幕を開ける。三つの物語が一つにつながり、俳優が各ステージを行き来する。

そのうちの一つをシアターグリーン育ちの劇団「ラビッツ」が各ステージを行き来する。

「一番長」主宰・井保三恵さん(四四)が演出する。

関西で演劇をやっていた井保さんは、演劇情報誌に必ず載っていた「シアターグリーン」にあこがれ、上京した。

「三つの劇場があるから、始めたばかりの人の中堅も、大きな劇場に出て行く直前の人、ここに集まれる。演劇祭をやっているのも、すごいこと。他の劇団に刺激を受けたり、現実を思い知る場になっている」。



前身の「池袋アートシアター」と劇場を作った仙行寺の当時の住職・朝比奈安成さん(劇場提供)

芸術祭が学生の登竜門に

「成熟した街には精神のよりどころが必ずある。上っ面の文化ではなくお寺も演劇も心に効く薬でなければ」

(宮崎美紀子)



一九六八年、シアターグリーン(当時の名称は池袋アートシアター)は隣接する仙行寺の先代住職・朝比奈安成さん(モウ)が、経営するアパートの一階に開設した。

「当時の池袋は戦後の闇市の雰囲気が残っていた。文化を担う人たちが行き交うことで街を変えられないかと父は考えたんです」



①シアターグリーンの支配人を務める隣接する仙行寺の住職・朝比奈文彦さん(豊島区)
②新春公演のけいこを見る脚本の朝比奈さん(後方左)と演出の井保さん(同右)新宿区で

明日から新春公演 平成時代劇片肌☆倶利伽羅紋紋一座「さくらもん」新春三館同時公演は4日・14日。BIG TREEシアターで「六道追分」、BOX in BOXシアターで「浮世行脚」、BASEシアターで「夫婦明暮」が同時刻に上演され、物語と登場人物がクロスする。詳細は劇場ホームページで。